

マル防・疑義照会調査 (速報値)

新潟薬科大学 小林 大高

調査の概要

- 実施主体 神奈川県薬剤師会・新潟薬科大学
- 実施時期 平成28年7月1日～31日
- 実施地域 神奈川県
- 協力薬局 神奈川県薬剤師会 地域保健委員
- 参加薬局 60薬局（回収薬局数57薬局（回収率：95%））
- 調査方法 アンケート調査
- 全処方せん数 期間中99,579枚（薬局平均1,747枚）

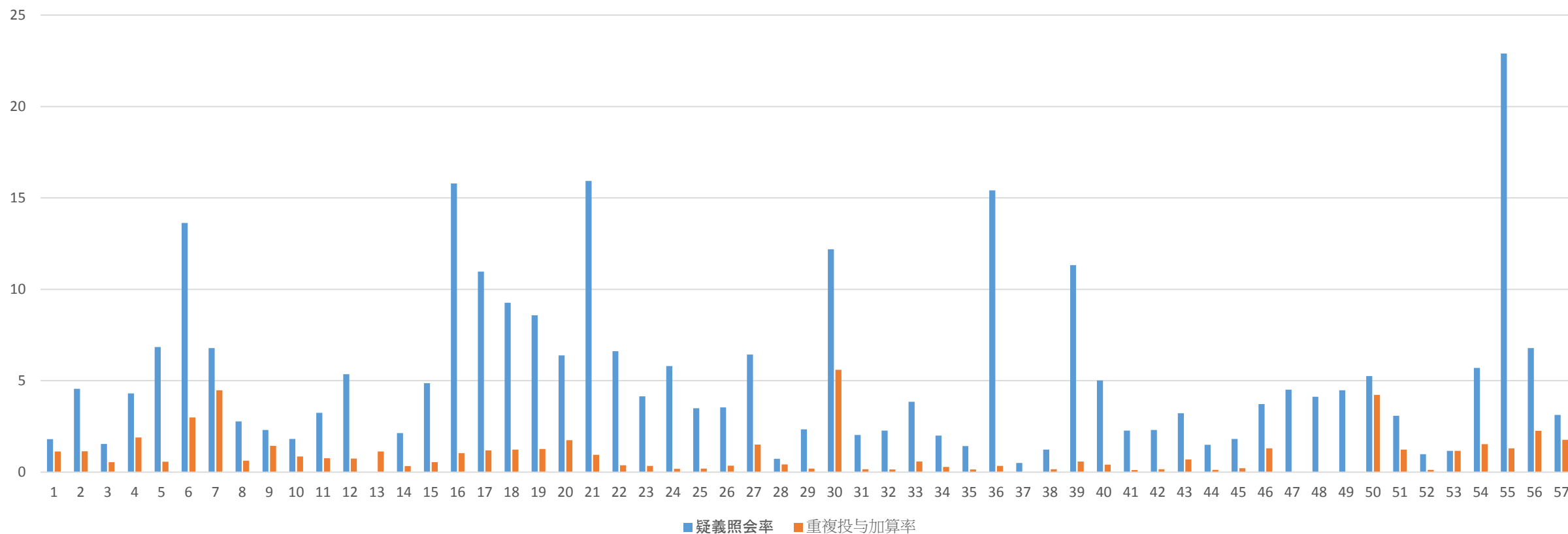
調査結果（速報値）

| | 処方せん受付 | 疑義照会回数 | 重複投与相互作用等防止加算 |
|------|--------|----------|---------------|
| 総計 | 99,579 | 4,900 | 1,005 |
| 平均 | 1,747 | 85.96491 | 17.63158 |
| 率(%) | | 4.920716 | 1.009249 |

※ 60薬局に調査協力を依頼し、58薬局より回答があった。回答内容の不備等によって1薬局の調査結果は除外し、57薬局より提出のあったアンケート用紙を用いて新潟薬科大学が解析を実施した。

参加薬局の疑義照会率と重複投与加算率 (速報値)

疑義照会調査概要 (N=57薬局)



調査結果にかかる考察（速報値）

日本薬剤師会が例年実施している「平成27年度全国薬局疑義照会調査報告書」（鹿村ら）によれば、処方せん受付枚数の全国平均は、1,425.8枚ということである。

本調査対象となった薬局の処方せん受付枚数の平均値が1,747枚ということを見比べると、本調査の対象となった薬局は全国平均よりもやや多忙な状況で調剤業務を行っていることが想像される。

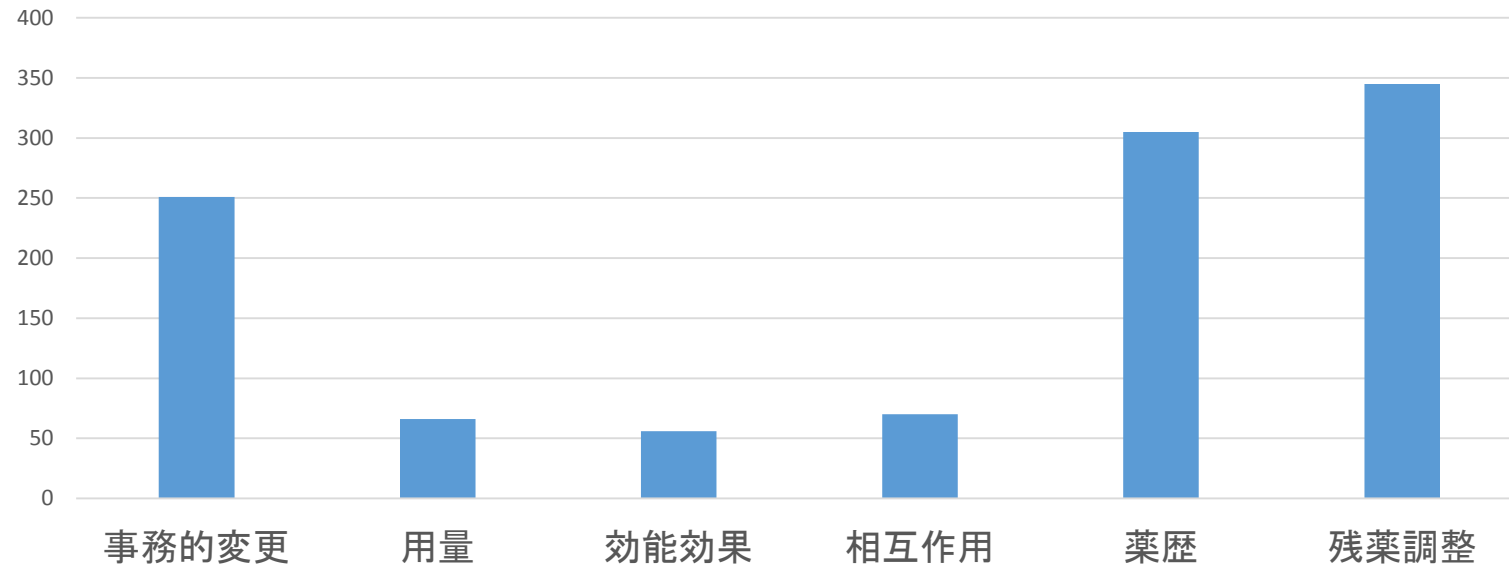
また、鹿村らによれば、全国平均の疑義照会率は2.56%であった。

しかし、本調査の示す疑義照会率は、4.92%に至っており、全国平均に比して非常に高い数値であるといえ、調査対象となった薬局が処方せんの監査に積極的であることが予想される結果となった。

あるいは、当該地域の医療機関が発行する処方せんが十分に成熟していないという可能性も示唆される。

マル防事例の解析概要(速報値)

重複投与相互作用等防止加算の内訳 N=1,005



※ マル防対象処方せんの内容を確認し、事務的変更、用量変更、効能効果にかかる変更、相互作用にかかる変更、薬歴に照会による変更、残薬調整の6分類に分けた。詳細な分類基準は別に示す

マル防事例の解析概要(速報値)

| | 事務的変更 | 用量 | 効能効果 | 相互作用 | 薬歴 | 残薬調整 |
|------------|----------|----------|-------------|----------|----------|----------|
| 全処方数の百分率 | 0.252061 | 0.066279 | 0.056236757 | 0.070296 | 0.306289 | 0.346459 |
| 重複加算中の発生割合 | 24.97512 | 6.567164 | 5.572139303 | 6.965174 | 30.34826 | 34.32836 |
| 全疑義照会中 | 5.122449 | 1.346939 | 1.142857143 | 1.428571 | 6.22449 | 7.040816 |

※ 事務的変更は、鹿村らの形式的疑義照会ではない。本調査の事務的変更は、マル防対象の疑義照会中において、純に薬学的知見を用いていない可能性のある疑義照会を指している。例えば、外用剤の使用法未記載、医師のケアレスミスによる処方ミス(変換ミス等)、適用外及び倍量処方等については、事務的変更としている。

薬局別の加算内容類型別ヒストグラム

重複投与相互作用防止等加算の内訳(率)

